北稜中

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の在り方

～生徒が「見方・考え方」を働かせる学習場面の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　藤田　浩司

１　研究主題について

令和３年度から施行された学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」がうたわれており、「対話的」な学習を通して「深い学び」を実現することが求められている。本校ではそれに向けて、一昨年度までの三年間、「主体的・対話的で深い学び」を主題に掲げて授業改善に取り組んできたが、その成果として、「主体的な学び」「対話的な学び」については、ある程度の成果が得られたものと思われる。しかし、「深い学び」については、まだ不十分な面があると言わざるをえない。

「深い学び」が実現しない要因としては、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を意識した授業づくりができていないことが挙げられる。学習指導要領解説において充実を図るよう配慮することが求められている学習活動等は、いずれも「見方・考え方を働かせること」が前提となっているため、「深い学び」を実現するためには、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を意識した学習場面を設定することが必要である。

以上のことから、昨年度から「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の在り方」を研究主題とし、副題を「生徒が『見方・考え方』を働かせる学習場面の工夫」として研究を進めてきたが、まだ研究が深まっているとは言えない状況にある。そこで、今年度も研究主題を継続し、「深い学び」の実現に主軸をおいた授業づくりを進めていきたいと考える。

２　研究のねらい

生徒が主体的に参加する対話的な学習場面の中に、生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習場面を効果的に設定することを通して、深い学びを実現する。

３　研究仮説

各教科・領域において、生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習場面を設定することにより、深い学びを実現できる。

４　研究内容

(1) 生徒が「見方・考え方」を働かせる学習場面の設定の工夫
(2) 生徒が「見方・考え方」を働かせる学習場面を意識した指導計画の工夫
(3) 生徒が自ら課題を発見できるような問題提示の工夫
(4) 授業の流れと到達目標を明確にした授業の工夫
(5) 授業アンケート結果を踏まえた指導法の改善

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	内　　容
4	5	全体会（主題・研究内容の確認、指導案の形式等）
6	1~11	第１回授業研究(授業参観週間)
	1~11	授業内容検討会（教科部会） ※「見方・考え方」を働かせる学習場面、課題を発見させる導入場面の設定について
7	1	第２回授業研究（計画訪問） 第３回授業研究（要請訪問） ３年　数学　「平方根」　　授業者：大前　拓視
１１	1~12	第４回授業研究（授業参観週間）

(2) 一般研修

月	日	内　　容
5	１３	エピペンの使用に関する研修
5	１８	指導と評価の一体化に関する研修
7	5	「見方・考え方」を働かせる学習場面を意識した指導計画の見直し
8	2	オンライン授業の作り方に関する研修 教育課程地区研究集会　資料読み合わせ ＮＲＴの分析
8	１９	授業アンケートの分析・考察① １学期の取り組みの反省と年間計画の見直し
１１	１８	今年度の課題、来年度に向けての改善点の洗い出し
１２	１５	中教研、各領域の発表に関する資料読み合わせ等の研修
1	２０	授業アンケートの分析・考察② ２学期の取り組みの反省と年間計画の見直し
2	9	授業アンケートの分析・考察③　３学年のみ 今年度の反省と来年度の研究の方針についての話し合い
3	２３	授業アンケートの分析・考察④　１、２学年 今年度の研修のまとめ

６　研究の成果

(1) 出前講座を活用するなどして、クロムブックを活用した授業実践に取り組むことができた。

７　研究の課題

(1) 「見方・考え方」を意識した授業展開について、クロムブックの効果的な活用法も含めて日々の実践の中で工夫していく必要がある。

(2) クロムブックは便利だが、使わない方が効果的な場面もあるので、どのような場面で生徒に使用させるかを判断する力が教師側に必要である。

（記入者　　鮫ノ口　正恵）